



年齢のはなし

…とはいっても、英語のK藤先生は●●歳で…とか言う話ではない（そんな話をすると身を危険にさらすことになる…）。時間がなくて詳しく触れられなかった、漢文（『論語』）に登場する年齢表現のことである。常識でもあるし、模試などで得することもあるかもしれないので、ちょっと勉強してみよう。

＊

さて、もう一度、本文を挙げると、

子曰、「吾十有五而志于学。三十而立。四十而不惑。五十而知天命。六十而耳順。七十而从心所欲不踰矩。」（為政）

であるが、先ずは、15歳、30歳、40歳、50歳、60歳、70歳を示す二字の語に印をつけてみよう。覚えてる？（答えは右側参照）

ちなみに、訳は早口でイイ加減にしか言わなかったもので、再度示すと、

先生が言った。「私は十五歳で学問を志した。三十才で独り立ちした。四十才で迷わなくなった。五十才で天命を知った。六十才で他人の言葉に素直に耳を傾けるようになった。七十才で心のおもむくままに行動して人の道はずれなくなった。」と。となる。ちょっと語注を加えてみよう。

- ▼「有」＝また、その上さらに。（＝プラス）
- ▼「志」＝強く明確な意志を持つので、この時まで学問をしていなかったわけではない。母の仕事を見ながら礼樂を身につけ、知識によって生きていくほかないと気づいたのである。
- ▼「立」＝しっかり立つ、固く守って動かない。自立する。ようやく自分の生きる道に自信がついてきたということ（知識人として認められたこと、とする説もある）。

▼「天命」＝天から受けた運命、天の与えた使命。仁と礼を社会の根本原理とする思想を後世に伝えること（魯国での失敗を天命だからと諦めたのだ、とする説もある）。

▼「順」＝素直、従順。何を聞いてもすらすらと理解できるようになった、とする説もある。

▼「矩」＝定規→掟、決まり。七十歳は孔子自身、故郷に落ち着いた時期である。

＊

で、答えであるが、15歳＝「志学」、30歳＝「而立」、40歳＝「不惑」、50歳＝「知命」、60歳＝「耳順」、70歳＝「従心」となる。孔子の享年は七十四歳で、この一節は自分の人生を、学問が進歩し人格が成長していく過程として描いたものと言われている。しかし、「七十にして矩を踰えず」とあることは、逆言えば、それまではしばしば思いのままに矩を踏み越える情熱家であったことを表現しているのかも知れない。そんな人間孔子の姿が論語からは伺えるようだ。（ちなみに、孔子の一生を表す放物線の頂点は「知天命」で、「耳順」「不踰矩」は、孔子が体力・気力の衰えを自覚した嘆声であるという説もある。）

ところで、70歳は「古稀」ともいう。そこで年齢表現をついでに挙げておくと、「弱冠」＝20歳、「還暦」＝60歳、「喜寿」＝77歳、「傘寿」＝80歳、「半寿」＝81歳、「米寿」＝88歳、「白寿」＝99歳などがある。

「白寿」は、「白」の字が「百」の上の「一」がないので、「100－1＝99」という頓知である。他の語の「いわれ」も、時間があつたら教養を深める意味で調べておこう。